# 平成 27 年度新宿区外部評価委員会第 3 部会
# 第 8 回会議要旨

＜開催日＞

平成 27 年 7 月 28 日（火）

＜場所＞

本庁舎 6 階　第 4 委員会室

＜出席者＞

外部評価委員（5 名）

名和田部会長、荻野委員、斉藤委員、中原委員、山田委員

事務局（3 名）

小泉行政管理課長、羽山主査、榎本主任

＜開会＞

【部会長】

第8回新宿区外部評価委員会第3部会を始めたいと思います。

本日は、計画事業評価の取りまとめを行います。

評価が分かれているところを中心に審議を行い、最終的に部会としての評価をどのようにするかを決定します。

まず、計画事業2「ＮＰＯや地域活動団体等、多様な主体との協働の推進」です。

こちらは、評価が分かれていませんが、こういう意見を言っても適当であるかどうかということを話し合いたいと思います。

委員から問題提起をお願いします。

【委員】

効果的効率的な視点の項目で意見を書きました。より協働を促進するためには、この事業の方法というのは非常に有効なのだということを説明していただく必要があるのではないのかと思ったということです。論点がすり替わっているような気がします。

【部会長】

本来、協働の推進を効果的に行っているということを書くべきなのに、協働が即ち効果的だという書きぶりはおかしいということですね。

【委員】

とは言っても、評価としては「適当である」なのですね。

【委員】

事業自体、とてもすばらしいと思うのですが、効果的効率的な視点の書きぶりだけが気にな

るのです。もう少し踏み込んで書いていただくといいと思いました。せっかくこれだけのことをされているのだから、それが区民に伝わるように評価すればいいのに、非常にもったいないです。

【部会長】

では、その意見は残しておくことといたしましょう。

あと、目標設定ですが、提案数が増えているということでしたので、そうであれば、それを目標値にしてしまえばいいのではないかと思いました。

【委員】

それはいいのではないでしょうか。

【部会長】

ありがとうございます。

それで、ほかの項目についても、各委員の意見は相互に矛盾しているということはありませんでしたので、このままままとめていけばいいと思います。いかがでしょうか。

＜異議なし＞

【部会長】

次に、計画事業3「町会・自治会及び地区協議会活動への支援」です。

町会・自治会への支援と地区協議会への支援は大きく異なりますが、一つの事業として評価する場合、うまくいかないのではないかということがあります。

では、委員から問題提起をお願いします。

【委員】

私は、サービスの負担と担い手、適切な目標設定、総合評価の項目を「適当でない」としました。私が思うのは、町会・自治会の加入促進に向けてはパンフレットの配布等を行うなど積極的な活動がありますが、地区協議会に関しては、区としてそこまで積極的な働き掛けがないように思います。

【部会長】

町会・自治会に関する目標設定ははっきりしているのですが、地区協議会に関する目標設定は、あり方の検討というだけで、非常にあいまいです。

それから、町会・自治会と地区協議会は、組織の性質として異なっていて、関連があるから一つの事業にしているけれども、評価としては難しいですね。

【委員】

全くその通りで、その他意見の項目で、町会と地区協議会は別事業として評価したほうがいいのではないでしょうかという意見を出しました。

なぜかと言うと、町会・自治会は加入率の向上に向けて一生懸命頑張っていて、結果、結構伸びているわけです。ただ、地区協議会としては、内部評価では課題整理ができたため達成度が高いとされていますが、課題整理ができたのかが見えてこないのです。地区協議会だけの事業であれば「適当でない」にするところだったのですが、町会・自治会も入っているため「適

当である」としました。

【部会長】

「あり方の検討」という指標はどうなのかと思っていたのですが、同じ意見だと知り、少し自信を得た次第です。

一方で、町会・自治会に関する指標ですが、加入率が設定されているものの、評価理由などには会員数の増大ということが書かれています。理論的には加入率のほうが大事だという立場ですが、会員数が増えて活動の輪が広がるということも大事です。それを大切にされているようなので、目標として設定してはどうかと提案する意見を書きました。

加入率は理論的に重要ですが、平成27年度までに60％とするのは、なかなか難しいと思います。そのような目標とともに、加入世帯数の増加を目標に掲げて、もう少しきめ細かく町会・自治会への支援の事業を評価していくということが望ましいのではないかという趣旨で書いています。

地区協議会については、先ほども申し上げたとおり、「あり方の検討」という指標はどうなのか、検討したから達成しているというのはおかしいのではないかと思います。

【委員】

町会と地区協議会という異なるものを一つの事業として評価すること自体に無理があるということを、この部会の意見としてまとめたらどうでしょうか。

したがって、地区協議会に関する「あり方の検討」という指標については、町会とは進捗の度合いが違うでしょうから、分けて考えていくしかないのではないでしょうか。

【委員】

おおむね同じような考えです。

目的の達成度についても、こういった課題をこのように整理できたという点が肝になります。検討した、整理したから「達成度が高い」というのは、評価としてどうかという趣旨の意見を書きました。

同じく、総合評価についても、補助金を出したということが評価に値すると見てとれるわけです。しかし、どのように有効に活用されているか、事業の趣旨に合うように、このように活用されているというようなところまでの記述がないので、地区協議会に関しては全般的に分析が不十分であると感じました。

【部会長】

地区協議会の評価指標として、補助金の活用状況に関する指標が何か考えられないでしょうか。ほかの自治体の場合、補助金を使い切れなくてむしろ困った事態になっているところもあるようです。目標設定の仕方として、使い切ればよいというような指標はよくないでしょう。しかし、補助金の使い方についてこのような目標があると、自信を持って言えないところで悩んでいます。

【委員】

補助金事業の評価の仕組みをやはり考えていくべきなのではないかと思います。

【委員】
問題は、地域自治の中で、地区協議会と町会とが明確に位置付けられていないことではないでしょうか。
【委員】
地域自治のことを考えると、きちんと役割が決まってからでないと、別事業とするのは難しいのではないかと思います。ただ、やはり一緒に評価するのはなかなか難しいですね。
【委員】
性格が違うから、地区協議会の性格が整理できないから分けられないということではなく、もう既に地区協議会を別事業として独立させる時期にきているのではないでしょうか。
【部会長】
計画事業として一つになっている以上、それぞれについてしっかり内部評価をしてほしいと思います。その上で、町会については、会員数が増えるということと加入率が増えるということを、それぞれ大事にするような方向で考えてはどうかということを、適切な目標設定のところで言ってもいいかと思います。地区協議会については、目標設定を新たに検討してはどうかという意見でまとめていけばよいと思います。
あとは、総合評価や第三次実行計画に向けての方向性の項目に各委員から出されている意見をまとめていくということでいいと思いますが、最終的に「適当である」若しくは「適当でない」を選択しなければなりません。
適切な目標設定を「適当でない」として、検討したというだけの目標設定はやめてほしいということをしっかり書けばよろしいですか。
＜異議なし＞
【部会長】
では、次は、計画事業4「生涯学習・地域人材交流ネットワーク制度の整備」です。
「適当でない」とした委員から、問題提起をお願いします。
【委員】
あまりにも新宿未来創造財団に任せきりではないかと思うのです。
【委員】
大事な事業の割には、目標設定では「人材バンク制度の活用促進」とだけあって、設定として不十分だと考えています。
【部会長】
新宿未来創造財団について言うと、組織として大きくなり過ぎているのではないかと思います。新宿区は外郭団体の整備統合を行ってきたという歴史はないのでしょうか。
【事務局】
新宿区も外郭団体がいくつかありましたが、事業内容を精査して、数年前に統合したことがあります。
新宿未来創造財団についても同じで、統合されて現在の財団になったという経緯があります。

【委員】
　新宿未来創造財団の良しあしにまで踏み込むつもりはありません。新宿未来創造財団に委ねて、財団が持っているシステムを使って管理運営等をしていくことと、この事業の目的の達成状況とを分けて目標設定して、事業として推進していく必要があるのではないかと思います。
【部会長】
　委員としては目標設定というところに絞って問題提起をされました。目標設定というところについてもう少し踏み込んで、「適当でない」として問題提起をしたいとのお考えですか。
　多様な実施内容があるにも関わらず、指標が、参加日数だけというのはどうなのか、という問題提起です。
【委員】
　参加日数だけでは部分的であり、この計画事業の目的の進捗全体を把握していることにならないという趣旨です。
【委員】
　今ある指標も、平成26年度に約5,000日まで達成しているにも関わらず、最終目標が4,500日というのはおかしいと思います。
【事務局】
　事務局から補足します。ヒアリングのときにもお話がありましたが、目標値の変更ですが、ある特定の年度で突出して日数が多かったため、その先の年度はそこまで日数が延びないだろうということで、この設定にしたが、結果として最終目標値を上回ってしまったということです。
【部会長】
　その点は、やはり指標が足りないからではないでしょうか。実施内容に比して指標が足りないから右往左往することになるのだと思います。
　別の観点から問題提起がありますか。
【委員】
　区が本来やるべきことも新宿未来創造財団に任せきりになっているから、もうこれでいいのだというような評価になっていると思います。
【委員】
　そのことについては、私としても考えの根底にはあるのですが、それを出すのではなく、もう少し手前の段階にとどめて意見すべきと思います。
【委員】
　委託することの良さがあるはずなのですが、その点があまり見えません。もっと工夫すれば、もっと事業の効果が上がるのではないかという気がします。
　そもそも事業名が「生涯学習・地域人材交流ネットワーク制度の整備」となっています。システムをつくって、それを使ってたくさんの人が地域で活動したというだけでなく、更にもう一歩踏み込んで、もっと地域の中での交流ができるようなものにしていってほしいと思います。

評価内容を見ると、システムが活用されるという段階にとどまってしまっているように思います。非常にもったいないという印象を強く持ちました。

【部会長】

適切な目標設定の項目は「適当でない」として、多様な事業を新宿未来創造財団に委託して実施しているので、区として責任あるコントロールを行うためにもう少し指標を充実させるべきではないかという趣旨の意見を書くこととしましょうか。

第三次実行計画に向けた方向性は「継続」ということですが、「適当でない」とすることまでは難しいでしょう。先ほどから話題になっている指標のことについての指摘にしぼってはどうでしょうか。

【委員】

効果的効率的な視点も「適当でない」として、今ある意見を基に、内部評価としての分析が不十分であることについて指摘をするというのはどうでしょうか。

システムが運用されているかどうかというのについての評価ばかりであり、何か効果的・効率的に行われているかどうかについての記述がないのです。

【部会長】

個々の事業において効果が上がることとは分かりますが、事業の目的にあるような、基盤を整備するということが、どのくらい図られているのかが分かりませんね。

【委員】

肝心なのは、地域における人材交流の基盤ができたのかということです。そのことの分析がないということを指摘したいのです。

【委員】

手段を見ると、人材情報の登録と活用先の拡大を図るだけではなく、登録者同士、区民と登録者、そして区及び財団が互いに情報発信することにより、活動先を拡大するための人材交流の仕組みづくりを行うとあります。「人材情報の登録と活用先の拡大を図るだけでなく」の先の部分については、まだ何もなされていない感じがします。

何日活動したということだけでなく、区民が交流したりすることで、自主的な活動が生まれてくるということが理想ですが、そういった点に全く言及されていないのは、この制度がまだ本領を発揮しきっていない、あるいは、事業目的をあまり意識していないのではないかと感じます。

【部会長】

部会としては、効果的効率的な視点の内部評価に対して、「適当でない」ということでまとめたほうがよろしいようですね。

まとめますと、適切な目標設定と効果的効率的な視点の項目を「適当でない」として、あとは「適当である」にしましょう。

そして、今出た意見、既にいただいた意見をまとめていけばよいと思います。いかがでしょうか。

＜異議なし＞
【部会長】
次は、計画事業87「区民の視点に立ち自治の実現に努める職員の育成」です。
委員から問題提起をしていただけますか。
【委員】
私が気になったのは、この指標だけで事業の進捗を測るのは少し乱暴ではないかということです。
【部会長】
その点は同意見です。事業名は壮大ですが、それに対し行っていることはそうではない。そして、設定されている指標と事業内容との因果関係も明確ではありません。
もう一つには、各自治体は人材育成基本計画というものを作っていますが、窓口対応がよいということだけをもって自治の実現に努める職員の育成という目標が達成できるという計画とはならないだろうということから「適当でない」としました。
【委員】
総合評価に部会長のご意見がないのはなぜですか。
【部会長】
窓口対応で好かれる職員というものの対極にある職員像として、何でも言うことを聞くのではなく、主張すべきところは主張するというる職員像があり、それは協働の場面では必要ですから、協働の視点による評価の項目に意見を聞きました。もちろん、総合評価の項目に入れてもいいと思います。もっと多様な職員像があるのではないかという趣旨です。
【委員】
私は、いろいろ意見を書きましたが、「適当でない」とまではしませんでした。
総合評価の項目は、それなりに内部評価されていると思います。
【部会長】
そういうことがあるから、総合評価の項目は「適当である」にしています。
適切な目標設定の項目で問題提起をして、あとは、人材育成基本計画は日常業務の中でかなり意識しておられると思いますので、ほかは「適当である」とする。つまり、適切な目標設定の項目だけは「適当でない」にして、あとは書かれたコメントをまとめるということでいかかでしょうか。
＜異議なし＞
【部会長】
次は計画事業88「新宿自治創造研究所の運営による政策形成能力の向上」です。問題提起をお願いします。
【委員】
研究所が実施する講演会の参加者数の目標を、毎年度500人と設定していますが、全職員のうち500人しか来ないというのは、目標水準として低過ぎるのではないでしょうか。

研究所を設置するのであれば、もっと力をいれて取り組むべきだと思います。

【委員】

私は、新宿自治創造研究所の設置は、非常に画期的なことであると評価しています。特に、都市における人口の増加あるいは変動というものに対して議論されていること、実際の活動の中においても政策策定現場への資料提供など行われているということで、これは適当であるというか、非常に良いと前向きに評価しました。

【委員】

私は、非常にお金がかかっている割に、実際の区民生活からは少し遠いところにあるものだと感じています。

しかし、これは、将来的に重要なものなのだろうと思います。そこのところをもっと説明してほしかったということを総合評価及び第三次実行計画に向けた方向性の項目で書きました。

また、人口推移や単身者割合などをお調べになっているようですが、もう少し効率よく実施する方法はないのかと思います。

それから、そういったものの把握と同時に、講演会なども実施されています。しかし、職員の研修という観点からは、計画事業87「区民の視点に立ち自治の実現に努める職員の育成」に統合されるのがいいのではないのかと思います。

【部会長】

恐らく、講演会などは、政策形成能力を高める事業として、一般の職員にも研究成果を聞いてもらうということなのでしょう。

【委員】

計画事業87「区民の視点に立ち自治の実現に努める職員の育成」の人材育成基本方針の中にも、行政課題に関して企画提案していく力を持ちましょう、問題解決をしていく人材を育成しましょうとありますので、大いに関連していると思います。うまく連携しながら効果的に実施してほしいと思います。

【事務局】

補足をさせていただきます。研修という面では、計画事業87「区民の視点に立ち自治の実現に努める職員の育成」と共催で研修を実施しているところです。そういう面では連携はしているのですが、計画事業87「区民の視点に立ち自治の実現に努める職員の育成」はあくまでも職員の育成です。政策形成能力だけではなく、例えば、危機管理能力、コミュニケーション能力など、職員としてのスキルを上げるという事業で、計画事業88「新宿自治創造研究所の運営による政策形成能力の向上」は職員の育成ということではなく、区の政策課題の調査研究ということになります。

職員にも調査研究結果を開示して、各職場でその課題に基づいて、各政策の基礎としてもらうということで、そのような違いがあり、互いに連携はしているところです。

【委員】

私は、計画事業87「区民の視点に立ち自治の実現に努める職員の育成」と一体化するという

ことについては消極的です。

むしろ、計画事業88「新宿自治創造研究所の運営による政策形成能力の向上」の成果というものを、各部署における政策立案の中で、理念的なものとして活用してほしいと考えます。あるいは、政策の策定を総括される部署との連携を強化していただいて、有意義なものとして実施してほしいと思っています。

費用については、どういうスタッフをそろえるかということにもよるのですが、このくらいのことは仕方がないのではないでしょうか。

【委員】

私も、新宿区の政策を練っていく中枢として、しっかりと頑張っていただきたいと思っています。

あと、協働に関して、区民研究員を募集し一緒に研究するという段階までレベルアップしてもらいたいと感じでいます。

【部会長】

確かに、一般区民目線で言うと、庁内シンクタンクは何しているか分からないというところがありがちだと思います。ある種、大学で行う学問に似たところがあるかもしれません。あまりに高尚で、何か日常生活に関係ないような気がするが、そういうことは大事にするという趣旨です。

そういう趣旨で、基本的には頑張っていただきたいというトーンでまとめてはどうかと思います。

第三次実行計画に向けた方向性の項目で、職員など議員からの問い合わせや相談は、現にあるという説明がありましたので、そのことを書くことはいいと思いますが、非公式的な機能ではなく、公式の機能として位置づけていくということも考えられるのではないかという、一歩踏み込んだ問題提起をしていますが、いかがでしょうか。

【委員】

国会にも、衆議院には衆議院の調査委員会というのがありまして、それから国立国会図書館もそういう機能で、議員立法をサポートしているわけです。ですから、当然のこととしてこういう役割は担うべきではないでしょうか。

【部会長】

分かりました。では、意見として残しておきましょう。

ほかにいかがですか。

【委員】

講演会の参加人数の目標値は500人なのが、やはり気になります。せめて、職員の半分というわけにはいかないのでしょうか。もしくは、入区何年目の職員は必ず参加する、という措置は講じることができないのでしょうか。

【委員】

500人ということではなく、業務の種類、職層などを考慮して、有効な目標設定をしてほし

いという意味ですね。
【委員】
職員を全員対象にすると、みんな理解しているのかどうか確認できないのではないでしょうか。それから、内容を濃くしたいので、少人数制で実施しているというお話があったと思います。
【部会長】
今までの審議を踏まえれば、500人という目標設定をもって「適当でない」とまでは言えないのではないでしょうか。いずれの項目も「適当である」とし、いままで出た意見をまとめて記載するということでよろしいでしょうか。ただ、500人という目標設定についてのご意見は、残すことは難しいと思いますが。
＜異議なし＞
【部会長】
次は、計画事業37「障害者、高齢者、若年非就業者等に対する総合的な就労支援」です。
内部評価自体、低く評価されていますね。
【委員】
私は、この事業は「達成度が低い」と言えないのではないかと思います。
「手段改善」、「達成度が低い」、「計画以下」ということであれば、この事業自体廃止するという方向にいってしまうのではないかと危惧しています。
【部会長】
大事な事業であることは、我々も、もちろん区も思っていることでしょう。そこははっきりしていると思いますので、それを部会としてどうまとめるかですが。
計画である以上は、「計画以下」となってしまうことも、当然にあり得ます。それを率直に反省されたのは大変いいと思います。「計画以下」だから頑張っていくということなので、それを後押しするような意見を書きたいと思いますが、いかかでしょうか。
【委員】
同意します。この問題は大事であるが、難しい問題です。
簡単に解決する問題ではないということを理解し、現場の悩みを共有していくということしかないのではないでしょうか。
「計画以下」を「適当である」とすることは、ある意味では非常に厳しいことです。気持ちとしては、「適当でない」としてあげたいですが、感情を入れず、「計画以下」とした所管部の姿勢そのものを高く評価したいと思います。
【部会長】
私も同感です。
【委員】
私もおおむね同じです。
しかし、可能であれば、第三次実行計画に向けた方向性を「手段改善」としていただきたか

ったと思います。どうしてそうならなかったのでしょうか。そこまでではないというお考えだったのでしょうか。

私は、「手段改善」という方向性がとられるべきだと思います。

【委員】

第三次実行計画に向けた方向性の説明として書かれていること自体適切だと思いますが、これは「手段改善」とはならないのでしょうか。

【部会長】

いろいろ見直してはいくようですが、「手段改善」とまでは言えないというところでしょうか。ヒアリングの感じでは、事業の効果が上がらないので事業を廃止するというような方向性だとは思えません。実際に、「継続」という方向性をとられていますから。この方向性を尊重したほうがいいのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

＜異議なし＞

【委員】

この真摯な評価姿勢は今後につながるものと思います。

【部会長】

では、全て「適当である」として、皆さんの意見を基本的に全ていかしていくことといたしましょう。

次は、計画事業7「男女共同参画の推進」です。

この事業は、先ほどの人材育成の事業と同じで、事業名は壮大だが、事業内容はそうではないという事業です。

目標設定と事業との因果関係もややあいまいです。この事業内容では、事業目的が達成できそうに思えませんが、目標設定は事業目的の達成を測るものとして考えています。当然、達成できないわけですが、内部評価としては「達成度が高い」としています。

これは、事業名と事業内容の乖離からくる問題ではないでしょうか。

講座の実施等、具体的な事業内容に即した、直接的で検証可能な目標を設定するという必要があるというのが私の意見です。

【委員】

とても大変な事業だと思います。そう簡単ではないと重々分かっているのですが、だからこそ、高い目標を設定することで、本来あるべき姿を示せるのではないでしょうか。

それから、講座などいろいろなことを実施されているわけですが、考え方を広げていくという意味では、講座に参加された方の男女比などを指標とすることも考えられるのではないかと思います。もう少し具体的な目標設定がないとなかなか進んでいかないのではないでしょうか。

全て「適当でない」にするのは行き過ぎだと思います。恐らく、担当者の方々も一生懸命取り組まれているようですが、今一歩広がり持てず、相当苦労されているような中で、新しい切り口で事業が展開されるきっかけになったらという思いで、意見を書きました。

【委員】

計画事業がこの内容であることについて、内部評価に対する指摘として、外部評価委員会がどこまで言えるかという思いがあります。私は、表現としてはこの程度にとどめました。総合評価の項目で書いているように、達成度をそのアンケートで見るというのは常識的であり、今の状況からすれば、このくらいの達成度だろうと思えます。

【部会長】

事業名と事業内容とを一致させないと、区民の信頼が失われるのではないかということに尽きます。

事業内容を考えれば、直接的で検証可能な目標も設定して、事業内容の検証を可能にすることが必要です。

【委員】

それだけでなく、講座に参加した、情報誌を読んだ方が、周囲にどのように伝えていくかという波及効果を考えていかなければいけないのではないでしょうか。

そういう意味で、どういう方が参加したかということが重要ですが、その辺の分析がないところが気になります。

【部会長】

むしろ、そのことが一番問題なのかもしれませんね。講座を何回実施したとしても、それが目標の達成に結びついたと言えるのかということです。

【委員】

そのことだけで議論するのであれば、全く賛成です。

【部会長】

外部評価としてどこまで言えるかということでいうと、目標設定と事業内容との因果関係が常識的には考えられないということです。

全く因果関係がないとは言えませんが、講座を実施すれば理解者が増えるとは思えないということです。やはり、直接的で検証可能な目標を設定すべきということになるかと思います。

【委員】

そのことは私も全く同感です。

【委員】

私は、第三次実行計画に向けた方向性の項目で「適当でない」としましたが、少し強く出過ぎたように思います。区民を巻き込んで実施していくのであれば、もっと具体的な周知に向けての改善と、それを評価する指標というものを、今後は設けてもらいたいというような意見を入れていただければ、「適当である」で結構です。

【部会長】

「継続」という方向性をとるのであれば、単純な継続ではなく、やはりもう少し区民に浸透するような周知活動、ＰＲ活動を考えていくべきではないかという意見でしょうか。

【委員】

講座、情報誌は意味がないと言っているわけではないのです。それが波及的に広まらなけれ

ば、取り組んでいる方々の努力がもったいないように思います。

【部会長】

やはり、適切な目標設定のところを「適当でない」として、直接的で検証可能な目標も設定してほしいという意見を付けることとしましょうか。

【委員】

はい。私が、効果的効率的な視点で書いている意見については、適切な目標設定への意見にまとめてしまって構いません。

【部会長】

では、適切な目標設定を「適当でない」とし、今出た意見を基調にしてまとめるということでいかかでしょうか。

ほかは「適当である」としつつ、第三次実行計画に向けた方向性について、継続していくのであれば単なる継続ではなく、より効果が上がるような努力を望みたいというように書くということでいかがでしょうか。

【委員】

小学校の高学年向けの情報誌のことについて意見を書きました。これは、大変時間のかかることだと思うのです。しかし、小学生からの教育において、もっと力を入れてやってほしいという期待感も入れて書いています。

【部会長】

非常に重要なご意見です。ぜひ意見として残していきたいと思います。

このようなまとめ方でよろしいでしょうか。

＜異議なし＞

【部会長】

では、本日はこれで閉会とします。

ありがとうございました。

**＜閉会＞**